

令和6年3月27日

丹波市議会議長 垣内 廣明 様

議会運営委員会

委員長 小橋 昭彦

委員会行政視察報告書

本委員会において実施した行政視察について、視察結果を別紙のとおり、丹波市議会基本条例第19条第2項の規定により報告します。

1 視察日程

令和6年1月25日(木)～26日(金)

2 視察先及び視察内容

(1) 宮城県柴田町議会

「議会改革の取り組みについて」

(2) 岩手県奥州市議会

「政策提言の取組等について」

3 視察者

委員長 小橋 昭彦

副委員長 太田 喜一郎

委員 奥村 正行、須原 弥生、大西ひろ美、谷水 雄一、西本 嘉宏

委員外議員 吉積 毅

4 随行者

議会事務局 事務局長兼議事総務課長 井尻 宏幸

議事総務課副課長兼議事調査係長 豊嶋 忠夫

5 視察の概要

(1) 宮城県柴田町議会「議会改革の取り組みについて」

ア 概要

柴田町は人口38,271人(R2.10.1)、面積54.03km²。「花のまち」柴田として、春のさくらまつりには25万人を超える人々が訪れる観光の町である。職員数は294人、財政規模は令和5年度一般会計当初予算で、歳出総額138億8,356万円。議員定数は18人、議員報酬は313,000円。常任委員会は「総務」「文教厚生」「産業建設」と「議会広報」が設置されている。

イ 取組概要

常任委員会の任期は2年。それぞれの常任委員会では、任期の開始にあたって「活動計画書」を作成する。計画書では、「重点調査事項」「そのほか委員会で取り上げたい事項」及び調査方法、活動スケジュールを記載し、これに基づいて委員会運営を行っている。

令和3年度、4年度の総務常任委員会を例にすると、重点調査事項に「地域公共交通事業について」を取り上げ、「そのほか委員会で取り上げたい事項」

として「地域おこし協力隊」「自治体DX」「再任用職員の待遇」「災害対策」等を取り上げている。なお、「そのほか委員会で取り上げたい事項」については、随時追加を行っている。

所管事務調査にあたっては、当初計画に沿って執行部から現状の報告をもらうほか、取り上げているテーマに関連する市民団体との懇談会も実施している。調査日はおおむね2日間連続して取っており、初日に調査した結果を2日目に委員間で討議し、指摘事項を取りまとめている。

委員会からは、1年経過時に「中間報告」を行っている。中間報告では、その段階までの調査の成果及び次年度の方針を記載するほか、所管事務で取り上げた執行部のそれぞれの担当部局に対して、委員会としての指摘事項を報告している。

重点調査事項については、最終的に政策提言に取りまとめる。提言書では市民団体等との懇談の結果のほか、行政視察の結果と考察などをふまえ、委員会としての考え（提言）を取りまとめている。

ウ 取組の特徴

常任委員会ごとに活動計画書を作成し、2年間を通して政策提言につなげることを目指している。市民との意見交換（団体懇談会）や行政視察についてもテーマと連動して行われており、委員会主導で政策を議論する土台として優れている。

予算決算の委員会でも委員間討議が重視されている。議案書配布後の第一印象及び質疑後に自由討議を行う。委員の考え方ができるだけ多く出るようにワールドカフェ形式で行っているところが特色。ワールドカフェ形式とは、委員が数名のテーブルに分かれ、何度かテーブルを交代しつつ、意見を出し合う方式である。自由闊達に意見が出る。一方で、提言については全会一致が原則であり、真剣勝負という。

なお、議会のICT化の面では、タブレット化に伴い、予算書・決算書以外はペーパーレスを実現されている。

会期は通年議会。議会懇談会は一般、団体、高校生に分けて実施されている。

エ 所感

常任委員会における活動計画については丹波市議会でも取り入れたい取り組みである。取り組みテーマの選定については、執行部への過度な負担がかからないよう、市政課題に添った選定を行う配慮等は必要かもしれない。その点、行政計画に上がる予定のものをテーマとする方向性は参考にしたい。計画策定段階において議会として先手先手で政策提言することにもつながる。

活動計画において「そのほか委員会で取り上げたい事項」で取り上げたテーマに関しても、所管事務調査で質疑を行った後、委員会として指摘事項をとりまとめ報告している。委員の個人的な見解と委員会として多数が賛同する見解に差があることは多々あり、委員会としての多数意見を執行部に示す方法として注目した。

通年議会の利点については、専決処分は減っていないとのことなので、執行部に対する監視機能の向上面では効果が不明である。一方で委員会の活動については、活動計画におけるその他の取り組みテーマを柔軟に追加することができ、通年議会の利点と考えられる。委員会を活性化する効果はあるのかもしれない。

委員間討議については、自由討議としてワールドカフェ形式が取り入れられている。委員会質疑の後の意見共有など、有効な場面もあろうかと想像するが、段階と場面によっては、通常の委員長が差配する形式の方がふさわしい場合もある。

議会懇談会のあり方については、市民との意見交換会の工夫として注目した。丹波市議会では団体との懇談会は主として委員会で行い、一般市民対象は議会で行う市民との意見交換会、高校生についてはミライプロジェクトで行っている。広聴全体のあり方を整理するにあたっての参考となる。

(2) 岩手県奥州市議会「政策提言の取組等について」

ア 概要

奥州市は人口112,937人（令和2年国勢調査）、面積993.30㎢と広大な市である。大谷翔平選手の出身地であり、市をあげて応援している雰囲気がある。市の財政規模は令和5年度一般会計当初予算で615億7,600万円。特別会計、企業会計を加えると1,000億円を超す規模である。

議員定数は28人。議員報酬は360,000円。政務活動費は月額12,000円。常任委員会は「総務」「教育厚生」「産業経済」「建設環境」が設置されている。

イ 取組概要

議会改革への積極的な取り組みを行っている。議長選出にあたっては、所信表明を行った後、その内容に関して議長任期中に取り組む具体的項目を列記して、議長マニフェストとして公表している。

本会議場にライブ字幕を準備して傍聴者向けに掲示する、議員間討議等の場面で生成AIを活用する、オンラインアンケートを活用する、法律改正に伴うオンラインでの請願提出についても対応するシステムを準備するなど、いち早い取り組みが目立つ。

政策提言については決議として全員一致することを目指しており、ガイドラ

インを策定して、議員間討議を制度として取り組めるように整備されていた。

ガイドラインにおいては、議員間討議とは「対話（論点整理）」から「議論（方策検討）」を経て「討論（決断・成果）」に至る、議会としての合意形成のプロセスと位置付けている。対話の手法としてワールドカフェ形式などを位置づけ、活発な自由討議ができるように工夫している。

ウ 取組の特徴

議員間討議において「自由討議」としてワールドカフェ形式を用いているところが特徴である。自由討議のうち、「対話」の段階は、それぞれの議員の思いやアイデアをすべて出していく段階。また、「議論」の段階は、それらをグルーピングすることを通して、論点の整理を行う段階である。こうしたやり方等をガイドラインとしてまとめ、制度として引き継げるように工夫されている。

自由討議は発言すべてを記録できないが、ワークシート等を議事録替わりに保存して市民の閲覧に供している。

なお、サウンドカード（登録商標）や生成A Iの活用、あるいはテキストマイニングによる注目論点の抽出など、新しい取り組みに積極的に挑戦されており、そうした先取の姿勢も独特なところである。

エ 所感

丹波市議会で「議員間討議」といえば、常任委員会において、委員長の差配のもとで委員同士が意見をたたかわすことを意味している。これに対して、ワールドカフェ形式で自由に意見を交わす「自由討議」形式を「議員間討議」と呼称されていることは発見であった。

ワールドカフェ形式については、自由闊達な議論を誘発するために効果的と感じる一方で、議事録に「言論の府」でのやりとりを逐語的に残す必要性を重視する立場からは、後世の検索ニーズに応えられないなど、疑問も残る。また、討議に先立って事務局を通して執行部との間で調整が行われていることについては、事前審査との関係性で位置づけを明確にする必要も感じた。

議長マニフェストや議会評価の専門家視点導入など、参考にしたい点が多い。

また、ICTへの取り組みでは、すぐにでも採用したいと感じる内容が多くあった。

6 総括

今回視察を行った両議会とも、政策提言に力を注がれていた。柴田町においては委員会からの政策提言、奥州市議会では予算決算からの政策提言を主として学んだ。常任委員会の活性化については、活動計画書を作成する手法に注目した。丹波市

議会の委員会活動は定例会ごとに継続審査事項を決定しており、2年間にわたっての継続性はない。活動計画書の作成とそれに基づく活動を行うことは委員会活動の活性化につながる可能性が高い。

予算決算審査の活性化については、比較するに丹波市議会における現行の予算決算審査における「審査意見」のとりまとめ手順が劣っているとは言えないのではない。実際、予算決算審査の結果出される意見については、丹波市議会の意見内容も十分に練られている。これは、全会一致を前提としない意見であるからという側面もあり、多様な市民意見を審査に反映させる上では、丹波市議会の現行方式も十分機能している。一方、常任委員会での調査研究内容と連動した予算決算審査という観点からみると、委員会における活動計画の導入に伴い予算決算審査での熟度を高めることができる可能性がある。

今回視察した両議会とも、議員間討議活性化の手法として、「ワールドカフェ形式」の自由討議を取り入れられていた。発言できる議員を多くし、議員それぞれの視点を共有する手法として評価できる。一方で、ワークシートやホワイトボードへの板書写真では、議事録として検索できない情報が多くなり、市民への情報公開という点から疑問が残った。活用場面を絞り、導入するとすれば、政策提言の初期段階における課題の列記やアイデア出し、あるいは委員会の活動計画書を作るにあたってのテーマに関する意見出しなどの段階において用いるのが効果的かもしれない。

その他の議会改革において、ICT活用面で参考になるところが多かった。以下のような取り組みについては、丹波市議会においても検討したい。

ひとつはライブ字幕の導入である。傍聴者への配慮だけではなく、正式な議事録ができるまでの仮のテキスト情報としても活用されていた。たとえばクラウドによるテキスト分析によって委員会での頻出単語を可視化するなどを行い、論点を整理する際の参考にするなどの事例である。議事録の早期公開が望まれている中、応急的な活用という点でも評価できる。

メールではなくLINE WORKSを利用した連絡についても利便性を感じた。各議員の既読状況が分かり、事務局の手間を減らす効果があるのではない。

生成AIの活用については、議事録の要約や広報誌用の画像作成など、作業効率化につながりやすい単純な作業から試行すれば取り入れやすい。

ペーパーレス化については、予算書・決算書以外は配布しないという方向性について、令和4年12月に行ったゼロカーボンシティ宣言の主旨からも検討に値する。